



ネームド VSAN の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ネームド VSAN, 1 ページ](#)
- [ネームド VSAN のファイバチャネルアップリンク トランキング, 2 ページ](#)
- [VSAN に関するガイドラインおよび推奨事項, 3 ページ](#)
- [両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 \(ファイバチャネルアップリンク モード\), 5 ページ](#)
- [両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 \(ファイバチャネルストレージモード\), 6 ページ](#)
- [1つのファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 \(ファイバチャネルアップリンク モード\), 8 ページ](#)
- [1つのファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 \(ファイバチャネルストレージモード\), 9 ページ](#)
- [ネームド VSAN の削除, 11 ページ](#)
- [ネームド VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID の変更, 12 ページ](#)
- [ストレージ VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID の変更, 13 ページ](#)
- [ファイバチャネルアップリンクのトランキングのイネーブル化またはディセーブル化, 13 ページ](#)

ネームド VSAN

ネームド VSAN は、所定の外部 SAN への接続を作成します。VSAN は、その外部 SAN へのトラフィックを切り離しますが、これにはブロードキャストトラフィックも含まれます。1つのネームド VSAN のトラフィックは、別のネームド VSAN にトラフィックが存在していることを認識しますが、そのトラフィックの読み取りまたはアクセスはできません。

ネームド VLAN と同様、VSAN ID に名前を割り当てると、抽象レイヤが追加されます。これにより、ネームド VSAN を使用するサービスプロファイルに関連付けられたすべてのサーバをグローバルにアップデートすることができます。外部 SAN との通信を維持するために、サーバを個別に再設定する必要はありません。同じ VSAN ID を使用して、複数のネームド VSAN を作成できます。

クラスタ設定内のネームド VSAN

クラスタ構成では、1つのファブリック インターコネクットのファイバチャネルアップリンク ポート、または両方のファブリック インターコネクットのファイバチャネルアップリンク ポートにアクセスできるように、ネームド VSAN を設定できます。

ネームド VSAN と FCoE VLAN ID

それぞれのネームド VSAN に FCoE VLAN ID を設定する必要があります。このプロパティは、VSAN およびそのファイバチャネルパケットの送信に、どの VLAN が使用されるかを決定します。

Cisco UCS CNA M72KR-Q や Cisco UCS CNA M72KR-E などの FIP 対応統合型ネットワーク アダプタの場合は、FCoE VLAN ID のネイティブ VLAN ではないネームド VLAN を使ってネームド VSAN を設定する必要があります。この設定により、FCoE トラフィックがこれらのアダプタを通過することが保証されます。

次のサンプルの設定では、ファブリック A にマッピングされる vNIC および vHBA を含むサービスプロファイルが、FIP 対応の統合型ネットワーク アダプタを搭載したサーバに関連付けられます。

- vNIC は、VLAN 10 を使用するように設定されます。
- VLAN 10 は、vNIC 用のネイティブ VLAN としても指定されます。
- vHBA は、VSAN 2 を使用するように設定されます。
- そのため、VLAN 10 を FCoE VLAN ID として、VSAN 2 を設定することはできません。VSAN 2 は、ファブリック A 上で設定された他のどの VLAN にもマッピングもできます。

ネームド VSAN のファイバチャネルアップリンク トランキング

各ファブリック インターコネクットのネームド VSAN にファイバチャネルアップリンク トランキングを設定できます。ファブリック インターコネクットのトランキングをイネーブルにすると、そのファブリック インターコネクットのすべてのファイバチャネルアップリンク ポートで、Cisco UCS ドメイン のすべてのネームド VSAN が許可されます。

VSAN に関するガイドラインおよび推奨事項

次のガイドラインと推奨事項は、ストレージ VSAN を含め、すべてのネームド VSAN に適用されます。

VSAN 4079 は予約済み VSAN ID です。

VSAN を 4079 に設定しないでください。この VSAN は予約されており、FC スイッチ モードや FC エンドホスト モードでは使用できません。

ID 4079 でネームド VSAN を作成すると、Cisco UCS Manager はその VSAN をエラーと見なし、障害を生成します。

FC スイッチ モードのネームド VSAN 用に予約された VSAN 範囲

Cisco UCS ドメイン FC スイッチ モードを使用する予定の場合は、ID が 3040 ~ 4078 の範囲にある VSAN を設定しないでください。

ファブリック インターコネクタが FC スイッチ モードで動作するように設定されている場合、その範囲内の VSAN は動作しません。Cisco UCS Manager はその VSAN をエラーと見なし、障害を生成します。

FC エンドホスト モードのネームド VSAN 用に予約された VSAN 範囲

Cisco UCS ドメイン FC エンドホスト モードを使用する予定の場合は、ID が 3840 ~ 4079 の範囲にある VSAN を設定しないでください。

Cisco UCS ドメイン 内に次の状況が存在する場合、その範囲内の VSAN は動作しません。

- ファブリック インターコネクタが FC エンドホスト モードで動作するように設定されている。
- Cisco UCS ドメイン にファイバチャネル トランキングまたは SAN ポート チャネルが設定されている。

これらの設定が存在する場合、Cisco UCS Manager は次の操作を実行します。

- 1 3840 ~ 4079 の ID を持つすべての VSAN を使用不能にします。
- 2 動作しない VSAN に対して障害を生成します。
- 3 デフォルトの VSAN にすべての非動作 VSAN を転送します。
- 4 非動作 VSAN に関連付けられたすべての vHBA をデフォルトの VSAN に転送します。

ファイバチャネル トランキングを無効にして、既存の SAN ポート チャネルのいずれかを削除すると、Cisco UCS Manager は 3840 ~ 4078 の範囲のすべての VSAN を動作状態に戻し、関連付けられている vHBA をそれらの VSAN に復元します。

FC スイッチ モードのネームド VSAN ID の範囲に関する制約事項

Cisco UCS ドメインで FC スイッチ モードの使用を計画している場合は、3040 ~ 4078 の範囲に VSAN を設定しないでください。

FC スイッチ モードで動作するファブリック インターコネクタがアップストリーム スイッチとして MDS に接続されている場合、Cisco UCS Manager で 3040 ~ 4078 の範囲に設定され、ポート VSAN として割り当てられた VSAN は、MDS で作成できません。この設定では、ポート VSAN の不一致が発生する可能性があります。

FCoE VLAN ID に関するガイドライン



(注)

SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

VLAN 4048 はユーザが設定可能です。ただし、Cisco UCS Manager では、VLAN 4048 が次のデフォルト値に使用されます。4048 を VLAN に割り当てる場合は、これらの値を再設定する必要があります。

- Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後：FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します（その VLAN ID が使用されていない場合）。
- Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後：デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。

両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 (ファイバチャネルアップリンクモード)



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンクモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # create vsan vsan-name vsan-id fcoe-id	指定されたネームド VSAN を作成し、VSAN の名前、VSAN ID および FCoE VLAN ID を指定し、ファイバチャネルアップリンク VSAN モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後：FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します（その VLAN ID が使用されていない場合）。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後：デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/vsan # set fc-zoning {disabled enabled}	次のように、VSAN に対するファイバチャネルゾーン分割を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [disabled] : アップストリーム スイッチがファイバチャネルゾーン分割を設定および制御します。または、ファイバチャネルゾーン分割がこの VSAN で実行されません。

両方のファブリック インターコネクにアクセス可能なネームド VSAN の作成 (ファイバチャネルストレージモード)

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> [enabled] : Cisco UCS Manager がファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、両方のファブリック インターコネク用のネームド VSAN を作成し、VSAN に **accounting** という名前を付け、VSAN ID 2112 を割り当て、FCoE VLAN ID 4021 を割り当て、Cisco UCS Manager ベースのファイバチャネルゾーン分割について VSAN をイネーブルにし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink* # create vsan accounting 2112 4021
UCS-A /fc-uplink/vsan # set fc-zoning enabled
UCS-A /fc-uplink/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/vsan #
```

両方のファブリック インターコネクにアクセス可能なネームド VSAN の作成 (ファイバチャネルストレージモード)



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-storage	ファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # create vsan vsan-name vsan-id fcoe-id	指定されたネームド VSAN を作成し、VSAN の名前、VSAN ID および FCoE VLAN ID を指定し、ファイバチャネルストレージ VSAN モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後 : FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するよう設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します (その VLAN ID が使用されていない場合)。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後 : デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage/vsan # create member-port {fc fcoe} {a b} slot-id port-id	メンバポートを作成し、ポートタイプ、ファブリック、スロット ID およびポート ID を指定します。
ステップ 4	UCS-A /fc-storage/vsan # set fc-zoning {disabled enabled}	<p>次のように、VSAN に対するファイバチャネルゾーン分割を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [disabled] : アップストリームスイッチがファイバチャネルゾーン分割を設定および制御します。または、ファイバチャネルゾーン分割がこの VSAN で実行されません。 • [enabled] : Cisco UCS Manager がファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します。
ステップ 5	UCS-A /fc-storage/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、ネームド VSAN を作成し、VSAN に finance という名前を付け、VSAN ID 3955 を割り当て、FCoE VLAN ID 4021 を割り当て、メンバポートを作成してメンバポート A、スロット 1 ポート 40 に割り当て、Cisco UCS Manager ベースのファイバチャネルゾーン分割について VSAN をイネーブルにし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-storage
UCS-A /fc-storage/ # create VSAN finance 3955 4021
UCS-A /fc-storage/vsan # create member-port fcoe a 1 40
UCS-A /fc-storage/vsan # set fc-zoning enabled
UCS-A /fc-storage/vsan/member-port* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage/vsan/member-port #
```

1つのファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成（ファイバチャネルアップリンクモード）



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope fabric {a b}	指定したファブリック インターコネクต์（A または B）のファイバチャネルアップリンク ファブリック インターコネクต์モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/fabric # create vsan vsan-name vsan-id fcoe-id	<p>指定されたネームド VSAN を作成し、VSAN の名前、VSAN ID および FCoE VLAN ID を指定し、ファイバチャネルアップリンク VSAN モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後：FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します（その VLAN ID が使用されていない場合）。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後：デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/vsan # set fc-zoning {disabled enabled}	次のように、VSAN に対するファイバチャネルゾーン分割を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • [disabled] : アップストリームスイッチがファイバチャネルゾーン分割を設定および制御します。または、ファイバチャネルゾーン分割がこの VSAN で実行されません。 • [enabled] : Cisco UCS Manager がファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します。
ステップ 5	UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、ファブリック インターコネクต์ A 用のネームド VSAN を作成し、VSAN に finance という名前を付け、VSAN ID 3955 を割り当て、FCoE VLAN ID 2221 を割り当て、Cisco UCS Manager ベースのファイバチャネルゾーン分割について VSAN をイネーブルにし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope fabric a
UCS-A /fc-uplink/fabric # create vsan finance 3955 2221
UCS-A /fc-uplink/vsan # set fc-zoning enabled
UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan #
```

1つのファブリック インターコネクต์にアクセス可能なネームド VSAN の作成 (ファイバチャネルストレージモード)



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

1つのファブリック インターコネクにアクセス可能なネームド VSAN の作成 (ファイバチャネルストレージモード)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-storage	ファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # scope fabric {a b}	指定したファブリック インターコネクのファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage/fabric # create vsan vsan-name vsan-id fcoe-id	<p>指定されたネームド VSAN を作成し、VSAN の名前、VSANID および FCoE VLAN ID を指定し、ファイバチャネルストレージ VSAN モードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後 : FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するよう設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します (その VLANID が使用されていない場合)。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後 : デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。
ステップ 4	UCS-A /fc-storage/fabric/vsan # create member-port {fc fcoe} {a b} slot-id port-id	指定された VSAN のメンバポートを作成します。
ステップ 5	UCS-A /fc-storage/vsan # set fc-zoning {disabled enabled}	<p>次のように、VSAN に対するファイバチャネルゾーン分割を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [disabled] : アップストリーム スイッチがファイバチャネルゾーン分割を設定および制御します。または、ファイバチャネルゾーン分割がこの VSAN で実行されません。 • [enabled] : Cisco UCS Manager がファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します。
ステップ 6	UCS-A /fc-storage/fabric/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、ファブリック A にネームド VSAN を作成し、VSAN に **finance** という名前を付け、VSANID 3955 を割り当て、FCoE VLANID 2221 を割り当て、メンバポートを作成してメンバポート A、スロット 1 ポート 40 に割り当て、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-storage
UCS-A /fc-storage/ # scope fabric a
UCS-A /fc-storage/fabric # create VSAN finance 3955 2221
UCS-A /fc-storage/fabric/vsan # create member-port a 1 40
UCS-A /fc-storage/fabric/vsan # set fc-zoning enabled
UCS-A /fc-storage/fabric/vsan/member-port* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage/fabric/vsan/member-port #
```

ネームド VSAN の削除

Cisco UCS Manager に、削除する VSAN と同じ VSAN ID を持つネームド VLAN が含まれている場合、この ID を持つネームド VSAN がすべて削除されるまで、この VSAN はファブリック インターコネクタ設定から削除されません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンクモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # delete vsan <i>vsan-name</i>	指定されたネームド VSAN を削除します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、ネームド VSAN を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # delete vsan finance
UCS-A /fc-uplink* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink #
```

ネームド VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID の変更



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope vsan vsan-name	指定されたネームド VSAN の VSAN モードが開始されます。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/vsan # set fcoe-vlan fcoe-vlan-id	ファイバチャネル接続に使用される VLAN に割り当てられた固有識別情報を設定します。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例は、finance というネームド VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID を 4000 に変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope vsan finance
UCS-A /fc-uplink/vsan # set fcoe-vlan 4000
UCS-A /fc-uplink/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/vsan #
```

ストレージ VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID の変更



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-storage	ファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # set fcoe-storage-native-vlan fcoe-id	ファイバチャネル接続に使用される VLAN に割り当てられた固有識別情報を設定します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例は、finance というストレージ VSAN の FCoE ネイティブ VLAN の VLAN ID を 4000 に変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-storage
UCS-A /fc-storage # set fcoe-storage-native-vlan 4000
UCS-A /fc-storage* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage #
```

ファイバチャネルアップリンクのトランキングのイネーブル化またはディセーブル化



(注) ファブリック インターコネクタがファイバチャネルエンドホストモードに設定されている場合、ファイバチャネルアップリンク トランキングを有効にすると、ID が 3840 ~ 4079 の範囲にあるすべての VSAN が動作不能になります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope fabric {a b }	指定したファブリックでファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/fabric # set uplink-trunking {enabled disabled }	アップリンクのトランキングをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/fabric # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、ファブリック A のファイバチャネルアップリンクのトランキングをイネーブルにし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope fabric a
UCS-A /fc-uplink/fabric # set uplink-trunking enabled
UCS-A /fc-uplink/fabric* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/fabric #
```